静岡大学総合情報処理センターに対しての
外部評価委員による評価結果報告書

平成２０年１２月

静岡大学総合情報処理センター

目　　次

Ⅰ．はじめに 2

Ⅱ．外部評価　実施要綱 4

１．目的 4
２．評価実施のプロセス 4
３．評価実施対象 4
４．評価の方法 5
５．評価委員会の構成 6

Ⅲ．外部評価委員会　記録 7

１．当日のスケジュール実績 7
２．外部評価委員会（当日の概要） 8
３．施設視察風景 26

Ⅳ．外部評価委員会　評価結果 29

１．評価委員長講評 29
２．『外部評価調査書』集計 32

Ⅴ．外部評価　結果分析 48

Ⅵ．外部評価を終えて 49

Ⅰ．はじめに

国立大学の独法化を境に、大学の情報系センター（静岡大学においては総合情報処理センター）は、いきなり世間の厳しい荒波にもまれることになりました。それまで省令施設であって予算措置が独立していたものが、運営費交付金に一括されましたので、大学上層部に情報系センターの役割や経費に対する理解を深めて頂く必要があります。人的資源、予算等を増やすことが困難な環境で、拡大の一途をたどる情報基盤を支え、研究と教育を支援することは至難の業といえましょう。その上、近年は研究にあっても教育にあっても、情報基盤の支えなしには機能を果たせず、情報系センターの責任と仕事量は非常に大きいといえましょう。

そもそも情報系センターの黎明期には、電子計算機の運営がその使命でしたが、ここ十数年の間に全く機能が変容し、大学の情報ネットワークの維持管理が主たる業務となっているにも拘わらず、大学における位置づけはほとんど変わっていないのが現状ですので、外部評価においても厳しいご指摘を覚悟しております。

静岡大学総合情報処理センター（以下「センター」という）では、上記のような業務の拡大・変容に対応するために、次のような計画に基づいて整備してきました。

- 情報セキュリティマネジメント（ISMS）の国際認証（ISO27001）を取得し、学内外にセンターの情報セキュリティに対する信頼を得ること。
- 改組を実施し、学内情報サービス機能を強化すること。
- 情報基盤関連の独自研究を深め、より高い情報サービスを提供すること。

ISMS 国際規格は 2003 年に、世界の大学の中でも非常に早い取得を果たし、初期に期待した成果を次々と生み出しております。現在は、国立大学の中で指導的立場を築いております。改組は 2003 年から学内で提案をしており、2009 年 4 月には全学情報化戦略の一元的企画・運営組織として生まれ変わることになっております。これまで

各種システムの導入は、部局等でバラバラに実施され、重複投資やサービスのばらつきによる非効率性が指摘されてきましたが、大幅な改善が期待されます。独自研究においては、情報セキュリティ、サーバ運用、遠隔講義等々多くの成果が上がっており、今後学内外への展開ができるものと考えております。

今回の外部評価は、３人の先生方にお願いし９月に実施されました。センターとしては、上記の考え方に基づく運営の成果を厳しく点検頂けるとの大きな期待を持っておりましたところ、期待以上の的確な多くのご指摘をいただくことができました。絶大な感謝とともに、今後に生かさなければならない重大な責任感に一同身が引き締まる思いです。

ここに、評価頂いた先生方と、資料作成などに関わられた多くの関係者に対し深く感謝いたします。

2008 年 12 月 3 日　　静岡大学総合情報処理センター長

八　巻　直　一

Ⅱ．外部評価　実施要綱

１．目的

今回の外部評価の目的は、センターが企画・運営してきた成果を客観的に評価頂き、今後の大学経営の中での情報化戦略に生かしていく材料を得るためである。

２．評価実施のプロセス

（1）自己点検

学内外における当組織が担う責務、活動の目的に照らした現状と今後の展望、及び各研究員の研究活動について自己点検を行い『自己評価書』として提出する。

（2）評価委員の委託

評価委員の委託はセンター長により、大学に於いての学術情報処理基盤の体制や動向に造けいが深く総合的な見地と判断を有する方が人選され、３名に依頼する。

（3）外部評価委員会

外部評価委員会当日は、静岡大学・静岡キャンパスにて、評価委員の方々とセンター関係者が一同に会し、先に提出した資料（『自己評価書』）に基づいたヒアリング、学内視察により、センターの活動のあり方についての総合所見を行っていただく。

３．評価実施対象

総合情報処理センター	静岡大学・城北キャンパス内（浜松）
総合情報処理センター・分室	静岡大学・大谷キャンパス内（静岡）

センターの業務は全学にまたがるため、浜松と静岡の両キャンパスに常駐部署が設置されている。

評価委員会と視察は、静岡の大谷キャンパスにて行い、浜松の城北キャンパスについては画像による説明にて補完する。

４．評価の方法

（１）評価委員へ提示する資料内容

１）　センターの全体像について、センターの歴史、活動の目的、センターが担う業務範囲、業務実施体制としてセンターの人的構成、財務状況として過去２年の財務表を『自己評価書』に掲載して提出する。

２）　センター活動の実績記録として、センターに関連する会議議事録・会議出席者名簿を添付資料として提出する。

３）　センタースタッフの業績評価・人事制度について、関連の学内規則を添付資料として提出する。

４）　センターでの研究活動について、業績の報告とそれについての自己点検結果を『自己評価書』に掲載して提出する。

（２）評価委員会の実施

評価は、評価委員会でのヒアリングと質疑応答及びセンターの視察を通して、また事前に提出される『自己評価書』と補足資料によりセンターの全体像を把握していただき、センターの活動のあり方について総合所見を行っていただく。

（３）評価委員からの結果の報告

講評は、評価委員長に全評価委員の評価を集約していただき、後日郵送にてセンターに通知していただく。

また、評価の定量的確認のため、下記の分野別に評価項目を列挙した『外部評価調査書』に採点した結果を記入していただく。

１）活動の目的
２）活動の実施体制
３）教員の採用・昇格等
４）活動の状況と成果
５）施設・設備
６）財務
７）管理運営

５．評価委員会の構成

（1）外部評価委員

委　員　長	山田　善靖	東京理科大学理工学部（嘱託）教授 元経営情報学会会長
委　員	増山　繁	豊橋技術科学大学　教授
委　員	湯瀬　裕昭	静岡県立大学　准教授

（左から、湯瀬委員、山田委員長、増山委員）

（2）外部評価実施委員

センター長	八巻　直一
副センター長	大島　純
専任教員(准教授)	井上　春樹
専任教員(准教授)	長谷川　孝博
学術情報部長	大久保　政博

Ⅲ．外部評価委員会　記録

１．当日のスケジュール実績

第１回　総合情報処理センター外部評価委員会

日　時　2008 年 9 月 26 日　14 時 ～ 18 時
場　所　静岡大学・大谷キャンパス内（静岡）　L棟2F　TV会議室

第一部	14:00－14:10			
	1	大学側挨拶	八巻センター長	10 分
	2	自己紹介	評価委員、全参加教員	
	3	スケジュール説明	八巻センター長	

第二部	14:10－14:40			
	4	センター紹介	全参加教員	100 分
	5	質疑応答	評価委員、全参加教員	

第三部	14:40－15:20			
	6	施設視察	案内： 八巻センター長＆井上春樹	40 分
	7	休憩		

第四部	15:20－17:30			
	8	センター内容説明	全参加教員	100 分
	9	質疑応答	評価委員、全参加教員	

第五部	17:30－18:00			
	10	講評	各評価委員	30 分
	11	挨拶	八巻センター長	

２．外部評価委員会（当日の概要）

センター長の挨拶、当日のスケジュール説明、評価委員会参加者の紹介に続き、『自己評価書』に沿ってセンターの全体像の説明を行った。

【事前確認】

評価委員の方々へ　　当委員会の開催風景の写真撮影についての了承を得る。

評価委員の方々より　　評価委員の方に提出した資料類の公開についての質問

Q. 自大学での参考にするため、学長等学内での公開は構いませんか？

A. 名簿、セキュリティ関連資料、決算表以外は OK です。（学内の限られた範囲でお願いします）

センター管轄の施設・設備について

この後、静岡キャンパスについては実際に施設の視察を行ったが、浜松キャンパスについてはスクリーンに映した画像のみで紹介。

■ センターの外観

井上准教授：　両キャンパスにおいてセンターの立地位置、建物外観、センターが占有するフロア面積等の説明を行った。

■ サーバ室内の機器・配線・スペック

井上准教授：　両キャンパスにおいて、センターが管理管轄する学内ネットワーク関連の情報機器の説明を行った。

ラック設置サーバ・スイッチ

ラックA	ラックB	ラックC	ラックD	ラックE	ラックF
監視装置	多電点会議装置(MCU)	L4スイッチ	ルータ	パッチパネル	シンクライアントサーバ
シンクライアントサーバ	IDS	教育用コンテンツフィルター	パッチパネル	パッチパネル	スイッチ
監視装置	監視装置	スイッチ(LAN)	パッチパネル	パッチパネル	計算機/バックアップサーバ
アカウント統合管理サーバ	監視装置	スイッチ(DMZ)	パッチパネル	スイッチ	SGFW部HD
プリント管理サーバ	監視装置	アンチウィルスゲートウェイ	伝送装置	スイッチ	SGFW部HD
授業支援サーバ	バックアップ装置	パスワード変更用Waiサーバ	FW	ギガビットスイッチ	研究計算サーバ/監視制御装置
クライアント管理・DHCPサーバ	ネットワーク・バックアップサーバ用テープライブラリ	Waiサーバ	IPS管理サーバ	BGPルータ	
TV会議管理用監視サーバ	ストレージ-2	メール&スプール・DNSサーバ	IPS装置	wwwバックアップ装置	
TV会議予約制御サーバ	ストレージ-1	光ファイバースプリッタ&ターミナル	幹スイッチ	webメールサーバ	
PROTEL-ライセンスサーバ	サーバ	LDAP・DNS・Radiusサーバ	スイッチ		
パスワード管理用クライアント		メール中継・DNSサーバ	スイッチ		
共有ディスク/バックアップ用HD		proxy用NAT	スイッチ		
DNSサーバ		Active Directoryサーバ			
アンチウィルスゲートウェイ		WWW用NAT装置			
アンチウィルスゲートウェイ		Active Directory用NAT装置			
センター管理ネットワーク用FW		KVM切替LCDコンソール			
スイッチ		ストレージ-2			
		ストレージ-1			
		スイッチ			
		スイッチ			

■ 研究計算サーバ

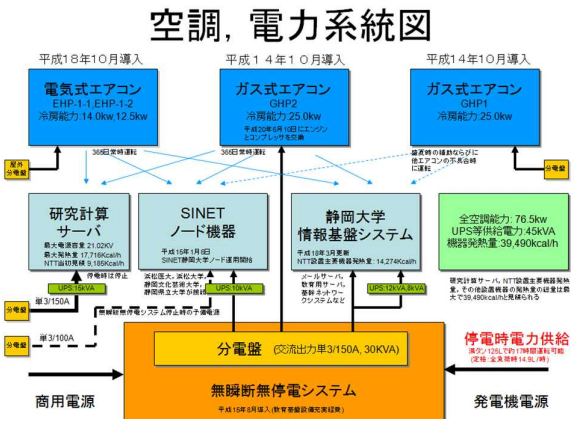
井上准教授：　学内での研究計算用に使用している研究サーバについて、スペック、使用実績、課金などの説明を行った。

■ SINET ノード機器

井上准教授：　静岡大学が 2003 年（平成 15 年）より学術情報ネットワーク（SINET）のノード校として機能し、他校との連携を図りながらそれに付随する業務をセンターが行っている。

■ その他、設備

井上准教授：　サーバ室等の管理のために設置されている空調・UPS・発電機などの状況を説明した。



■ 実習室

井上准教授：　浜松・静岡両キャンパスの教育用端末について、実習環境、使用の管理などについて説明を行った。

評価委員からの質問に対して

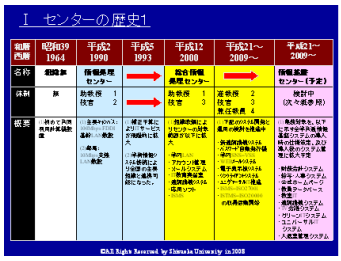
八巻センター長：　「施設、物理的面積、人的なもの、現状どれも厳しい状況です」と回答した。

学　内　視　察　（静岡キャンパス）　～ 15:20

学内視察の後、再び『自己評価書』に沿ってセンターの全体像の説明を続行した。

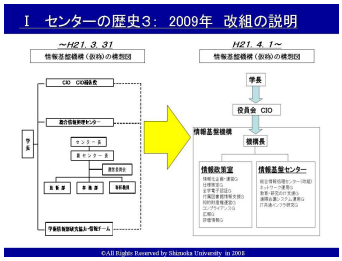
センターの歴史

井上准教授：　1990 年（平成 2 年）に情報処理センターとして発足し、2000 年（平成 12 年）より省令施設「総合情報処理センター」として認められ、現在に至る経緯を説明した。



組織体制　改組計画

井上准教授：　現在の組織体制、学内におけるセンターの位置付けについて説明し、全学的な業務遂行にあたっての改組の必要性と改組後の展望について説明を行った。



湯瀬委員　　：　「現状、教務システムはセンターのマターではないのですか？」

八巻センター長：　「大学教育センターです。しかし仕様策定及び運用についてはセンターが支援しております。」

増山委員　　：　「図書館との関係はどうなっていますか？」

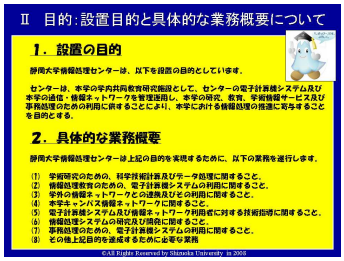
八巻センター長：　「別組織です。今後改組の中で関係の再定義が行われる可能性があります。」

増山委員　　：　「CIO を置くのは文科省の方針ですか？
うちの学校は置いていないのですが。」

八巻センター長：　「文科省の方針と認識しています。」

活動目的・業務概要

井上准教授：　センター規則に定められ、全職員に周知されているセンターの具体的な業務についての説明を行った。



増山委員　　：　「e-Learning についての取組についてはどうですか？」

八巻センター長：　「関係学部と連携して整備・支援を行っています。」

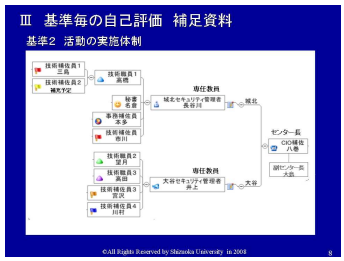
各委員　　：　「大学の中の情報化について、進め方はどのように行っていますか？」

（委員の方々より自大学での経験から質問多々）

八巻センター長：　「現在、大学のビジョンの中に情報化戦略が含まれています。これまでは全学統一された戦略が無かったのですが、今後は一元化されます。」

活動の実施体制　人的構成

井上准教授：　センター内の人的構成と各委員会の位置づけ・権限について説明を行った。



人員について

増山委員　　：　「専任ですか？非常勤の方もいますか？」

八巻センター長：　「すべて専任ではありません。
非常勤職員も派遣職員もおります。」

センター関連会議

井上准教授：　センター関連会議の実施実績についての報告を行った。

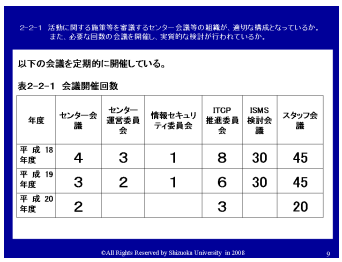


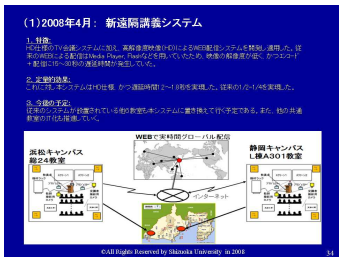
表2-2-1　会議開催回数

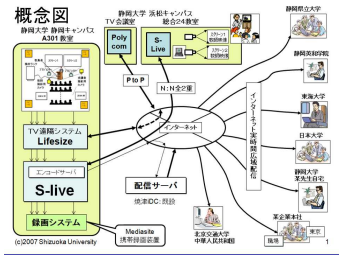
年度	センター会議	センター運営委員会	情報セキュリティ委員会	ITCP推進委員会	ISMS検討会議	スタッフ会議
平成18年度	4	3	1	8	30	45
平成19年度	3	2	1	6	30	45
平成20年度	2			3		20

研究活動の状況と成果

■ 遠隔講義システム

井上准教授：　現在作成中の新遠隔講義システムについて、システムの構成、実証実験の方法、問題点などについての技術的な説明と、それにかかる費用、導入についての各所の事情などを説明した。





（各委員より技術的な質問多々）

各委員　　：　「現実に使用している会議等はありますか？」
「講義での使用はどうですか？」

八巻センター長：　「全学会議など多数使用しています。」
「授業には４コマ程度です。」

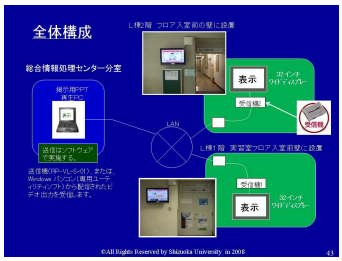
（各委員の学校の現状と比較しながらの質問多々）

各委員　　：　「この遠隔講義システムなど、独自開発システムの売り上げはどうなりますか？」

八巻センター長：　「収益事業は行っておりません。」

■ 電子掲示板システム

井上准教授：　本年度より運用を開始した電子掲示板の特徴・効果・コスト・今後の予定について説明を行った。

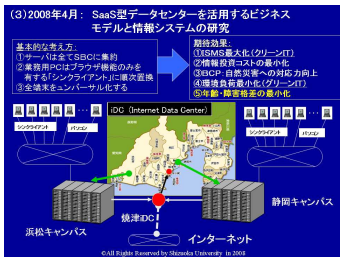


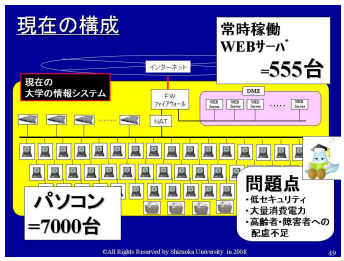
各委員　　：　（電子掲示板についても自大学への導入を意識した具体的な質問が多々）

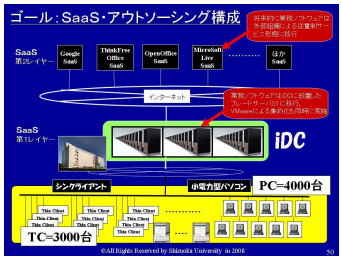
井上准教授：　各技術的な質問に回答した。

■ SaaS 型ビジネスモデルの研究

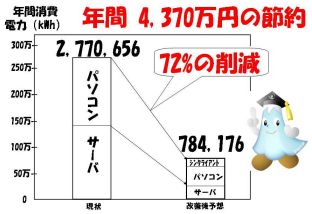
井上准教授：　現在学内において実地研究中の SaaS 型ビジネスモデルの構成・取得データによる予測効果・今後の展開予定について説明を行った。



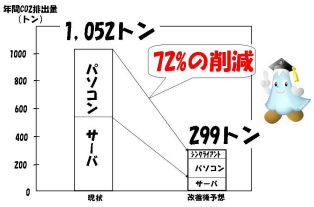




消費電力量低減予想



環境負荷低減予想

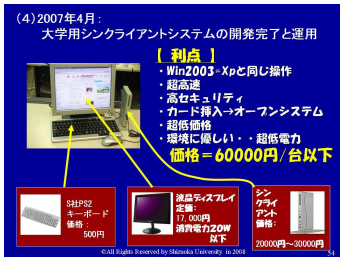


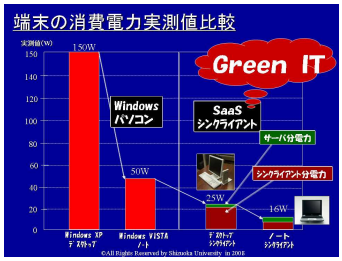
増山委員　　：　「文科省より、IT 保守への耐震補助はありますか？」

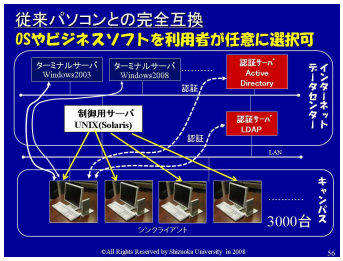
八巻センター長：　「現状いただいておりません。」

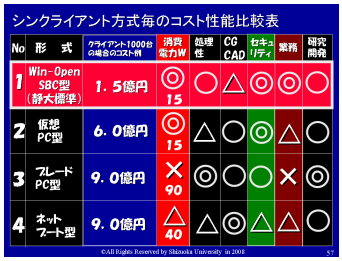
■ シンクライアント化による ECO

井上准教授：　学内で使用されているネットワーク端末を随時シンクライアント端末に置き換え、電力消費量等の計測データによる全学的な節電効果などの説明を行った。



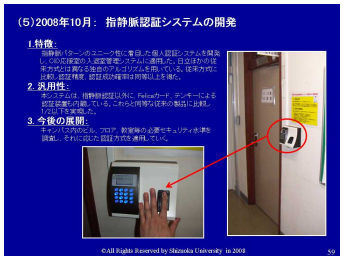


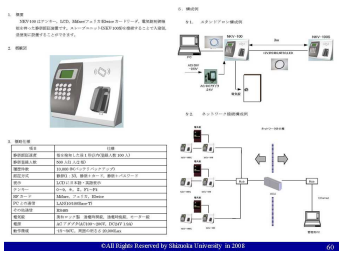




■ 指静脈認証システム

井上准教授：　入退室の認証システムについて、実験的に導入した指静脈による認証機器の技術的な説明、使用してみた感想、費用などの説明を行った。





その他、学内各所の認証システムの質問に対して

八巻センター長：　「まだまだ研究が必要です。」

湯瀬委員　　：　「出席には使っていますか？」

八巻センター長：　「使っていません。」

学生のプリンター用紙について

増山委員　　：　「課金はしていますか？」

八巻センター長：　「課金しています。」

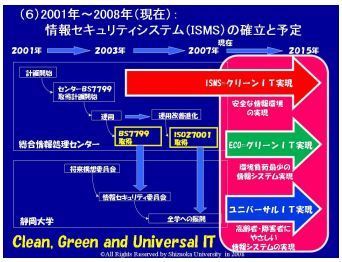
「学生が酷使しなくなるので、プリンターのメンテナンス経費が削減されます。」

湯瀬委員　　：　「SCS の管理もセンターですか？」

八巻センター長：　「そうです。ただし今年度いっぱいで撤去になります。」

■ ISMS の確立

長谷川准教授：　センターの主業務である学内インフラの管理のため、また、センターの研究活動の一環として、ISMS 認証取得をめざして進めてきた具体的な工程と取得に関する手続き、取得後の維持作業について説明を行った。



ISMS について

増山委員　　：　「費用はどうしていますか？その捻出は？」

八巻センター長：　「センター経費をもって充当しています。」

センター側からの全体説明が終了したところで、評価委員より、センターの全体像については理解できたが『評価調査票』を記入するにあたってもう少し詳細な確認をしたいということで、以下の質問があがった。

質問の中でその場での回答ができなかった事項（詳細データなど）については、追加資料として作成し、後日郵送することとした。

実習室について

湯瀬委員　：　「実習室の稼働率はどのぐらいですか？」

大学の社会貢献について

湯瀬委員　：　「セミナーなど、参加者数やその後の反響などわかりますか？」

学外へのサービスについて

湯瀬委員　：　「どのようなものがありますか？」
「SINET のノード校として何かありますか？」
「センターのシステムの学外利用はありますか？」

増山委員　：　「センターが管理する施設等の面積はどのくらいですか？」

増山委員　　：　「センター長の任命はどのように行なわれますか？」
八巻センター長：　「センター規則にあります。独法化以降、実質的に学長任命になっています。」

湯瀬委員　　：　「学生へのヘルプデスクは提供していますか？」
八巻センター長：　「センターの学生受付がその機能を果たしています。」

【追加資料】
1）センターが管理する各施設（実習室を含む）の面積
2）情報実習室の授業コマ数と活用実績
3）情報実習室の受講者数実績
4）遠隔講義設備を使用した授業のコマ数、受講者数実績
5）決算一覧表のうち、インフラ等全学にかかる経費とセンター運営費の仕分け
6）年度計画（センターに関する部分の抜粋）
7）大学のユニバーサルデザイン化（障害者対策）対応の推進
8）日常業務中、負荷が大きいパスワード再発行業務のボリューム

３．施設視察風景

ISMS 認定証書の説明

複製

JACO
Japan Audit and Certification Organization for Information Security

UKAS 189 ISMS IS 0007

国立大学法人 静岡大学
総合情報処理センター
静岡県浜松市城北3丁目5番1号

登録証
ISO/IEC 27001:2005・JIS Q 27001:2006

学術ネットワークハブ拠点の管理・運営・ならびに学内ネットワーク
および各種サービスの管理・運営・提供

静大情セ ISMS-006-7 2006年10月5日発行

IC03J0027 2003年11月25日 2009年11月24日

登録範囲の情報セキュリティマネジメントシステムは、
JACO−ISの情報セキュリティマネジメントシステム審査登録制度に基づいて
審査した結果、適用規格に適合していることを証します。

2006年11月25日

株式会社日本情報セキュリティ認証機構

認定番号：ISR007

認証登録番号：IC03J0027

サーバ室の説明

遠隔講義システムの説明

電子掲示板の説明

評価委員会　説明風景

（左から、長谷川准教授、大島副センター長、八巻センター長、井上准教授）

（左から、湯瀬委員、山田委員長、増山委員）

Ⅳ．外部評価委員会　評価結果

１．評価委員長講評

静岡大学総合情報処理センター外部評価報告

外部評価委員会

委員長　山田善靖

本報告は３人の外部評価委員の静岡大学総合情報処理センター外部評価調査票をもとに外部評価委員会としてまとめたものである。

外部評価は本調査票にしたがって以下の７分野についてアンケート形式で評価したものである。以下に順番にその概要を示す。

１．活動目的について

全体として評価は４または５であり良好である。本センターの活動目的は明確であり、内容も適切であると考える。

２．活動の実施体制について

全体としては４の「やや良い」である。現在の各部署の活動は適切に行われていると思われるが、静岡大学の規模を考えると総合情報処理センターの規模が若干小さいと考えられる。特に災害などの緊急時の体制を整備することが求められる。

３．教員の採用・昇格等について

全体として評価は４の「やや良い」である。センターの規則、細則等に専任教員の選考と昇任に関する内容が明確に決められている。また、専任教員の業績も公開されており、採用、昇任等についても適切に行われていると思われる。さらに、企業から専任職員を採用する等、幅広く人材を集めていることは評価される。

４．教育・研究について

全体として評価は４の「やや良い」である。本センターのスタッフの教育・研究は活発に行われていると考えられる。特に ITCP や ISMS の活動に積極的に取り組んでいることは評価される。また、低電力高性能シンクライアントや Web 型講義配信システムなどの開発に取り組んでいる。今後ますます業務量が増加することを考えるとスタッフの増員が望まれる。

５．施設・設備について

全体としては４の「やや良い」である。静岡大学は静岡キャンパスと浜松キャンパスと大きなキャンパスが離れているために両キャンパス間の遠隔講義の設備を整えることが求められてきた。両キャンパス間に 10Gbps の高速ネットワーク接続がされていることは高く評価される。

６．財務について

全体としては４の「やや良い」である。センターの業務量の多さと今後の増大を考えると今後予算増加が望まれる。同時に、センター全体の経費を削減するためにもセンターの効率的運営が望まれる。

７．管理・運営について

全体としては４の「やや良い」である。現在のセンターの管理・運営は円滑になされていると思われる。しかし、IT 基盤重要度がますます高くなることを考えると今後のセンター運営のために人員強化が求められる。また専任のセンター長、副センター長を置くことも検討するべきだと考える。

その他のコメント

総合情報処理センターは学内インフラとしての情報ネットワークの管理・運営を担うとともに、情報機器、情報ネットワークの利用、運用の研究開発を行ってきた。今後のセンターを取り巻く急激な環境変化に迅速に対応できる体制を作ることが必要である。そのためには CIO としてのセンター長を理事・副学長クラスのポストとすることも必要であると思う。

以上３人の外部評価調査票をまとめたものであるが、総合情報処理センターの活動については高い評価がされる。しかし、これからの総合情報処理センターはますます重要になることを考慮すると、今後のセンター人員強化および予算の増額が望まれる。

２.『外部評価調査書』集計

『外部評価調査票』は、外部評価委員の方々に外部評価委員会（2008 年 9 月 26 日）にご出席いただいた後、下記の記載要領で評価を記入しご提出いただいた資料です。

評価を定量的に確認しやすくするため、評価項目に対して採点方式でご記入いただきました。

○採点基準

５段階で評価

（５：良好である　４：やや良い　３：普通である　２：やや不十分　１：不十分）

○コメント欄

当該分野に対する評価のポイントや判断の根拠となったこと

早急に改善することが望ましい点の指摘

改善のためのご助言

などを自由記述でご記入いただく。

次頁以降に、各委員にご記入いただきました『外部評価調査票』を掲載します。

（表記について）

Ａ委員：山田委員長

Ｂ委員：増山委員

Ｃ委員：湯瀬委員

（1）活動の目的

項番	評　価　項　目	評　価			
		A 委員	B 委員	C 委員	平均
1	学内共同教育研究施設等としての活動を行うに当たっての基本的な方針についてどのように思われますか。	5	4	5	4.67
2	達成しようとしている基本的な成果についてどのように思われますか。	5	4	5	4.67
3	上記、目的・活動の基本的な方針・達成しようとする基本的な成果が、明確に定められていると思われますか。	4	4	4	4
4	上記内容が、学校教育法に規定された、大学一般に求められる目的に適合すると思われますか。	4	4	5	4.33
5	目的が、大学の教職員及び学生（以下、構成員という。）に周知されていると思われますか。	5	4	4	4.33
6	目的が、社会に広く公表されていると思われますか。	4	4	4	4
7	センター設置の理念をどのように思われますか。	5	4	5	4.67
全　体　評　価		5	4	5	4.67

【コメント】

■A 委員

本センターの活動目的は規程等により明確であり、その内容も適切であると考える。

■B 委員

すべての項番について、いずれも妥当、かつ、望ましい水準に達していると思われる。

■C 委員

総合情報処理センターは大学内の諸活動を運営するための基本的なインフラとして重要であり、そのミッションが利用者にとって明快である。本センターでは、活動目的が規程等により明確化されており、その内容は適切だと考える。

（2）活動の実施体制

項番	評　価　項　目	評　価			
		A 委員	B 委員	C 委員	平均
1	活動に係る基本的な組織構成が、目的に照らして適切なものであると思われますか。	4	4	4	4
2	活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していると思われますか。	4	4	4	4
3	活動の質の向上のための取り組みが適切に行われていると思われますか。	4	4	4	4
4	基本的な組織構成が、目的を達成する上で適切な規模と機能を持っていると思われますか。	4	4	4	4
5	活動に関する施策等を審議するセンター会議等の組織が、適切な構成となっていると思われますか。	4	4	4	4
6	必要な回数の会議を開催し、実質的な検討が行われていると思われますか。	5	4	5	4.67
7	活動の質の向上のために、活動の状況を検証し、問題点等を改善するための取り組みが行われていると思われますか。	4	4	4	4
8	大学の構成員、その他学外関係者のニーズを把握し、適切な形で活動に反映されていると思われますか。	4	4	4	4
全　体　評　価		4	4	4	4

【コメント】

■A 委員

教職員数、大学生数、大学院生数等大学の規模に比較して、活動組織の規模が若干小さいと思われる。しかし、各部署の活動は適切に行われていると考える。
特に ITCP 推進委員会、ISMS 検討会議の活動は他大学と比べて評価できる。災害時など緊急時の体制を明確にすることが望まれる。

■B 委員

定常業務を遂行する上での組織体制は妥当であり、会議等も適切に実施されていると思われる。

但し、災害時など緊急時への対応についての体制を明確にすることが望まれる。

■C 委員

教職員が 1190 人、学部生と大学院生の総数が１万人を超える大学の規模から考えて、活動組織の規模が若干小さいように思われる。しかし、適切な組織構成に従って、各部署が機能し、業務が大きな支障もなく行われていると思われる。ITCP 推進委員会と ISMS 検討会議が作られ、活発に活動していることは他大学に比べて評価すべき点だと考える。

（3）教員の採用・昇格等

項番	評　価　項　目	評　価			
		A 委員	B 委員	C 委員	平均
1	教員の採用・昇格等についてどのように思われますか。	4	4	4	4
2	教員の採用及び昇格等に当たって、適切な基準が定められ、それに従い適切な運用がなされていると思われますか。	4	4	4	4
3	専任教員の採用基準や昇格基準等が明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされていると思われますか。 特に、それぞれの専門的役割に応じた能力の評価が行われていると思われますか。	4	4	4	4
4	教員の活動に関する定期的な評価が行われていると思われますか。	4	4	4	4
5	その結果、把握された事項に対して適切な取り組みがなされていると思われますか。	4	4	4	4
全　体　評　価		4	4	4	4

【コメント】

■A 委員

センター規則、細則等に専任教員の選考と昇任に関する内容が決められている。センター専任教員の業績も公開されており、採用、昇任も適切に行われていると思われる。

企業から専任職員を採用する等、幅広く人材を集めていることは評価される。

■B 委員

採用、昇進とも、適切に行われていると思われる。

企業から専任職員を採用する等、幅広く人材を集めていることは評価できる。

■C 委員

センター規則、細則やその申し合せ事項などで、専任教員の選考と昇任に関する内容が決められている。また、センター専任教員の毎年の業績も公開されている。これらのことから考え、専任教員の採用・昇格等については特に問題がないと考える。

（4）活動の状況と成果

項番	評　価　項　目	評　価			
		A 委員	B 委員	C 委員	平均
1	目的・基本的方針に照らして、学内共同教育研究施設等としての活動が活発に行われ、成果が上がっていると思われますか。	5	4	5	4.67
2	研究成果の発表、論文の数、学会等への発表回数、傾向などどのように思われますか。	5	4	5	4.67
3	共同研究、受託研究の状況についてどのように思われますか。	4	4	3	3.67
4	学会役員・法人幹事活動状況についてどのように思われますか。	4	4	4	4
5	他大学等外部とのハード面での情報ネットワーク環境をどのように思われますか。	4	4	4	4
6	情報機器を使用する全学的な各部門との連携・連絡は適切であると思われますか。	4	4	4	4
7	教育との連携（支援）は適切であると思われますか。	4	4	4	4
8	セキュリティ対策の活動内容は十分だと思われますか。	4	4	5	4.33
9	当センターが行っているセキュリティ対策の他大学等外部への情報発信は十分だと思われますか。	4	4	4	4
１０	センター活動の充実のために、専任教員、技術職員、事務要員等の人数は適切であると思われますか。	2	2	2	2
１１	センター活動の充実のために、専任教員の教授・准教授の人数構成は適切であると思われますか。	2	3	3	2.67
全　体　評　価		5	4	5	4.67

【コメント】

■A 委員

センターの現スタッフ数からみて活発な活動を行っていることは高く評価できる。特に ITCP や ISMS の活動に積極的に取り組み、ISMS 面で ISO や JIS の認証を受けている。しかし、現在の業務量に対して、さらに今後増加する業務量を考えると、専任教員、技術職員、事務要員の増加が望まれる。

■B 委員

現状のスタッフ数からみて活発な活動を行っており、高く評価できる。
但し、業務量に対して専任教員２名、技術専門職員３名の体制は人数不足と思う。
また、専任の教授を配置することが望まれる。

■C 委員

本センターは、早くから IT コンプライアンス（ITCP）や情報セキュリティ管理（ISMS）の活動に積極的に取り組み、ISMS 面で ISO や JIS の認証を受けている。また、低電力高性能シンクライアントや Web 型講義配信システムなどの開発に取り組んでいる。少ない人数ながら、多くの研究成果が得られているように思われる。しかし、大学の規模を考える。専任教員、技術職員、事務要員の人数が少なく思える。今後、本センターの役割と仕事量がますます増えそうな状況を考えると、人員の増強が必要だと考える。

（5）施設・設備

項番	評　価　項　目	評　価			
		A 委員	B 委員	C 委員	平均
1	目的の実現にふさわしい施設・設備が整備され、有効に活用されていると思われますか。	4	4	5	4.33
2	研究サーバと実習室について、機器の機能・端末数について適切であると思われますか。	4	4	4	4
3	施設・設備のユニバーサルデザインの観点から、配慮がなされていると思われますか。	4	4	4	4
4	施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、大学の構成員に周知されていると思われますか。	4	4	4	4
5	大学の構成員、その他学外関係者のニーズを満たす情報ネットワークが適切に整備され、有効に活用されていると思われますか。	4	4	5	4.33
6	センターの面積・キャンパス内における地理的条件は、大学の構成員の利用し易さの点で適切であると思われますか。	4	4	3	3.67
7	文部科学省の大学設置基準に照らしてどのように思われますか。	4	4	3	3.67
全　体　評　価		4	4	4	4

【コメント】

■A 委員

静岡、浜松キャンパス間が 10Gbps の高速ネットワークで接続され、両キャンパス間の遠隔講義設備もととのっている。学内外のニーズを満たす施設・設備が充実している。

■B 委員

高速ネットワーク等、学内外のニーズを満たす施設・設備が充実している。
更なるサービスの向上として、多様な学生のニーズに対応するため、24 時間開放の実現が望まれる。

■C 委員

静岡キャンパスと浜松キャンパス間が 10Gbps の高速ネットワークで接続され、両キャンパス間の遠隔講義設備も揃っている。また、約 500 台の実習用パソコンが整備されている。これらのことから、教育用コンピュータ施設は比較的充実していると判断する。しかし、パソコン実習室に多くのパソコンが配備されているが、一人あたりのテーブルサイズが狭いように感じられる。今後は、学生の快適な学習環境確保のために、ゆとりあるパソコン実習スペースの確保が必要のように思われる。

（6）財務

項番	評　価　項　目	評　価			
		A 委員	B 委員	C 委員	平均
1	目的を達成するため、活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有していると思われますか。	3	3	3	3
2	目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていると思われますか。	4	4	5	4.33
3	目的を達成するため、活動に対し、適切な資源配分が行われていると思われますか。	4	4	4	4
4	予算の策定に関し、委員会等で適切な審議が行われ、教職員に明示されていると思われますか。	3	4	3	3.33
5	決算に基づき、資源配分の効果に対する評価を行っていると思われますか。	4	4	4	4
6	また、その評価結果を次期の予算策定にフィードバックしていると思われますか。	4	4	4	4
全　体　評　価		4	4	4	4

【コメント】

■A 委員

今後のセンター業務の増大を考えると、予算増が望まれるが、毎年予算が削減されている状況の中では大きな予算増は期待できない。よって、全学的見地に立ったセンターの運営が望まれる。

■B 委員

毎年予算が削減されるなど厳しい財政状況の中で、適切、かつ、効率的、かつ、透明に予算が執行されている。

■C 委員

センター予算に占めるリース費用の割合が大きいが、リース費用については、急激な削減は難しいと考えられる。今後のセンター業務の増大を考えると、予算増が難しいのであれば、他部局管轄の情報システムの導入・管理などを本センターに一本化するなど、全学的見地に立った情報システムの効率的な運営が予算面も含めて必要だと思われる。

（7）管理運営

項番	評　価　項　目	評　価			
		A 委員	B 委員	C 委員	平均
1	目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していると思われますか。	4	4	4	4
2	管理運営に関する方針が明確に定められ、それらに基づく規定が整備され、センター教職員の責務と権限が明確に示されていると思われますか。	4	4	4	4
3	目的を達成するために、活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が行われ、その結果が公表されていると思われますか。	4	4	4	4
4	管理運営のための事務組織及びその他の組織が、目的の達成に向けて支援するという任務を果たす上で、適切な規模と機能を持っていると思われますか。	3	4	3	3.33
5	また、上記任務遂行のための業務量に対し、センター職員の人数は適切であると思われますか。	2	2	2	2
6	上記職員の技術レベルと配置のバランスは適切であると思われますか。	3	3	4	3.33
7	目的を達成するために、センター長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える組織形態になっていると思われますか。	5	3	5	4.33
8	管理運営のための事務組織及びその他の組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取り組みが組織的に行われていると思われますか。	4	4	4	4
9	管理運営に関する方針が明確に定められ、その方針に基づき、諸規定が整備されるとともに、管理運営に関わる委員会等の責務と権限が文書として明確に示されていると思われますか。	5	4	5	4.67

１０	適切な意思決定を行うために使用される、目的、計画、活動状況に関するデータや情報が、蓄積されているとともに、センター教職員が必要に応じてアクセスできるようなシステムが構築され、機能していると思われますか。	5	4	5	4.67
１１	活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われていると思われますか。	4	4	4	4
１２	自己点検・評価の結果が大学内及び社会に対し広く公開されていると思われますか。	4	4	4	4
１３	自己点検・評価の結果について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による検証が実施されていると思われますか。	4	4	4	4
１４	評価結果がフィードバックされ、管理運営改善のための取り組みが行われていると思われますか。	4	4	4	4
全　体　評　価		4	4	4	4

【コメント】

■A 委員

現在のセンター業務は円滑に実施されていると考える。しかし、今後のセンター業務の増大を考えると、人員強化が必要と思われる。特にセンター長、副センター長については、専任が望まれる。

■B 委員

現状はセンター長、副センター長共兼任であるが、円滑に管理・運営がなされている。しかしながら、担当教員に本務に加えての負担を強いている。よって、専任のセンター長、副センター長を置くことが望まれる。

■C 委員

全体的に見て、現在のセンター業務は滞りなく行われているように思われる。しかし、IT 基盤の重要度がますます高くなることを考えると、今後のセンター運営のための人員強化などについての検討を行ったほうがよいと考える。

《その他》

■B 委員

総合情報処理センターは、電話、電気、水道等と同様、学内インフラの整備、管理・運営を担う役割をもつと共に、情報機器、情報ネットワークを利用、運用しながら研究開発を行う使命も担ってきた。しかしながら、センターを取り巻く環境の急激な変化に対応して、その位置付けも急激な変化を迫られてきている。

強力なリーダーシップの下、急速に変化する学内外のニーズに迅速に対応するため、CIO としてのセンター長を、理事・副学長クラスのポストとすることが必要ではないかと思う。

Ｖ．外部評価　結果分析

全体として４（やや良い）の評価をいただいた。しかし、以下の点が特に指摘されたものと認識される。

- 大学におけるセンターの役割を考えると、資金、施設、人員のすべてで相当不足である。
- 大学におけるセンターの責任の大きさを考えると、センター長、副センター長には、CIOあるいは専任教員を当てることを考えるべきである。

【改善すべき項目】

- 災害時などへの対応策を明確にすべきである。

  目標：事業継続計画を業務ごとに明確にし、日常的に維持する。

  計画：ISMSの要求項目でもあり、直ちに着手する。

- 専任の教授をおくべきである。

  目標：現在の准教授のポストは元来教授ポストであり、実質的に教授昇任人事を実施する。

  計画：大学では定員制から人件費制に移行し、現状維持または削減が実施されている。従って、センターの人事の経緯と特殊事情を理解頂き、今年度中ないし次年度早期に実現を図る。

- 業務規模に対して要員が不足である。

  目標：二つの施策を考える。

  １．学内兼任教員と学外客員教授を大幅に増員する。

  ２．技術対応の増強のためにSEの派遣を受け入れる。

  計画：１については、改組計画の中で本年度中に実現を図る。

  ２については、今年度中に枠組みを定義し、来年度以降早期に実現する。

- 学生の実習などのスペースが狭い。

  目標：学生のスペースを確保する。

  計画：情報基盤更新時（2010年）に、抜本的に実習室の設計を改善する。また、同時期に、静岡キャンパスにおいてはセンターから離れた人文学部や農学部にも実習スペースを確保する。

Ⅵ．外部評価を終えて

外部評価は、下記委員により 2008 年 9 月 26 日に実施された。

前東京理科大学教授　　山田　善靖氏

豊橋技術科学大学教授　　増山　繁氏

静岡県立大学准教授　　湯瀬　裕昭氏

その結果、いくつかの貴重なご指摘を得ることができ、センターにとっては大きな成功であったといえよう。山田先生からは、大学のマネジメントの経験とご自身の専門分野である経営工学の立場から経営的視点によるご指摘を得た。増山先生からは、ORのご専門であり、運営の効率性の視点からご指摘をいただいた。湯瀬先生からは、情報技術と情報教育の現場の教育者であり、かつ研究者である立場から設備や組織機能についてご指摘をいただいた。これらは貴重なものばかりであり、今後の改組や運営に生かされなければならない。

静岡大学総合情報処理センターに対しての

外部評価委員による評価結果報告書

2008年12月発行

編集・発行　総合情報処理センター

〒432-8561　**静岡県浜松市中区城北3丁目5番1号**

TEL　(053)478-1024

URL　http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/

ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　center@sains.ipc.shizuoka.ac.jp